セゾンマルチシリーズ　据付説明書・電気配線工事説明書

FDTJ(P)　28HKXD3～160HKXD3

PJA012D601

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気配線（室内）、リモコン取付方法は裏面をご覧ください。
室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。又、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
本ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。

お願い

○取扱説明書を見ながらお客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご指導ください。
長期間使用しない時は、電源スイッチを切るようお客様にご指導ください。
○溶接作業時などに発生するスパッタが本ユニットにあたった場合、ドレンパン等に損傷（ピンホール）を与え、水漏れにいたる可能性があります。ユニットの近くで溶接作業を行う場合は十分な注意をお願いするとともに、ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、おおいなどにより必ずカバーをしてください。
●下記に示すような場所での据付、使用は避けてください。
▶油の飛沫や蒸気の多い所（例：調理場、機械工場）
熱交換器の性能低下・腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。
▶腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある場所。熱交の腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。
▶病院などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近く。ノイズ発生によるコントローラの誤動作の原因となります。
▶潮風が当たる所。（海浜地区）外板、熱交の腐食の原因となります。
●下記に据付け上の注意事項を示しますので必ずお守りください。
▶直射日光の当たる所にリモコンを設置しないでください。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
▶据付けに不備があると振動運転音増大の原因になります。

① 据付の前に

▶据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
▶まず下記項目を確認してください。
●機種・電源仕様
●配管・配線・小物部品
●付属品

〈付属品〉

本体吊り込み用

1	平座金(M10)		4個	ユニット吊り下げ用
2	レベルゲージ（インシュレーション）		4個	本体吊込調整用

冷媒配管用

1	パイプカバー		1個	ガス管用
2	パイプカバー		1個	液管用
3	バンド		4個	パイプカバー用

ドレン配管用

1	パイプカバー		2個	ドレンソケット用
2	ドレンホース		1個	
3	ホースクランプ		1個	ドレンホース用

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外ユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

②室内ユニットの据付場所の選定

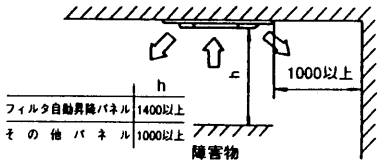
1．据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
- ●冷風または温風が十分に行きわたる所。
  据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
- ●ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
- ●吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
- ●直射日光のあたらない所。
- ●周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。

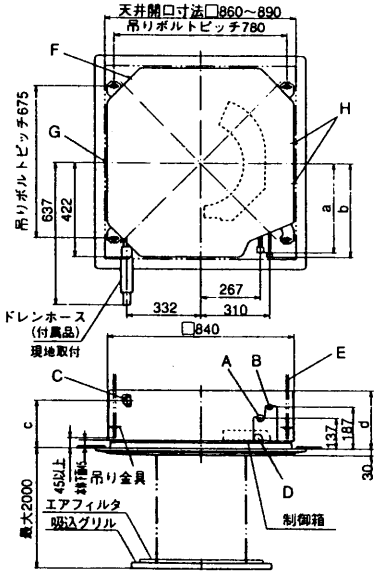
（本ユニットはJIS露付条件にて試験を行ない、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下するおそれがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合には、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取り付けてください。）

2．据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうかを検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

室内ユニット据付スペース

(mm)





- ●ユニット一壁、ユニットーユニット間等、間隔がとれない場合は、そちら側の吹出口を遮風しショートサーキットしない事を確認してください。（遮風材別売）
- ▶2方向・3方向吹出の場合は風量「Lo」での使用は遮けてください。

A	冷媒ガス側配管
B	冷媒液側配管
C	ドレン配管接続口
D	電源取入口
E	吊りボルト
F	OA取入口
G	吹出分岐ダクト接続口
H	加湿器接続口

[標準シリーズ]

機種	a	b	c	d
28～80	400	420	210	260
90～160			270	330

③吊り込み

●吊りボルト（M10 or M8）、同用ナット、平座金およびバネ座金を4組現地にて手配してください。

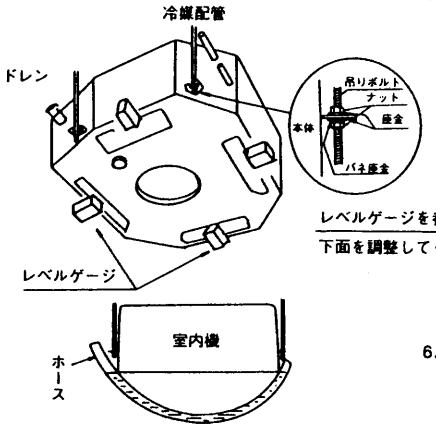
A. 天井がある場合

1．標準シリーズの場合□860～□890をあけてください。
梱包用ダンボールケースの外周を参考に天井開口をあけてください。
▶天井開口中心とユニット中心は同じです。

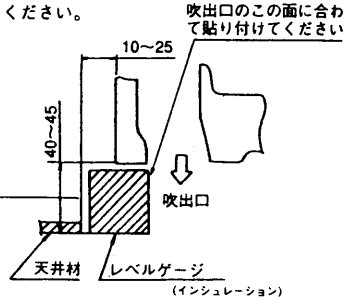
2．吊りボルト位置（675×780）を決めてください。

3．吊りボルトは、4本使用し、1本当り50kgfの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。

4．吊りボルト長さは、天井面より70mm程度上としてください。



5．ユニット吊り込み後付属のレベルゲージを貼り付け、ユニット高さを固定してください。



6．透明ホースに水を入れたものを使用してユニットの水平度を確認してください。（ユニット両端での高さ許容差は3mm以内）

B. 天井後貼りの場合

1．吊りボルト位置（675×780）を決めます。
▶吊りボルトピッチセンタとユニットセンタは同一です。

2．吊りボルトは、4本使用し、1本当り50kgfの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。

3．梱包用ダンボールケースの外周を参考に天井開口をあけてください。

4．上記A-5.、6.により固定してください。
▶梱包用ダンボールを使用して室内機をカバーすることができます。

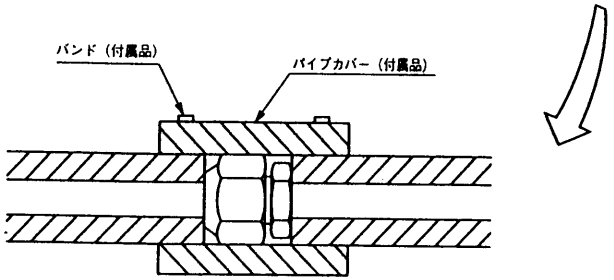
お願い ●吊りボルトが1.3mを超える場合は、M10の吊りボルトを使用し、かつ、吊りボルトに筋交い等を行い、補強をしてください。

④冷媒配管

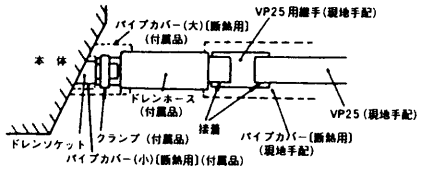
冷媒配管工事については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

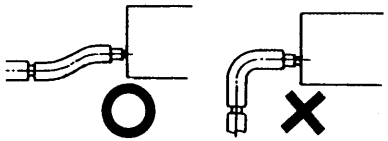
ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

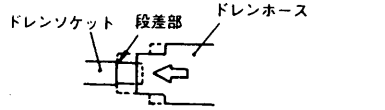
●室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。

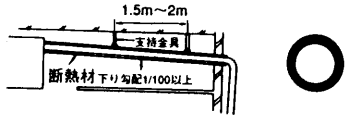


⑤ドレン配管









●付属のドレンホースとVP25用継手の接着はユニット吊下げ前に実施してください。

●ドレンホースは、ユニットあるいは、ドレン配管の据付時の微少なずれを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っぱって使用された場合、破損し、水モレに至る場合があります。

●接着剤は付属ドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損する恐れがあります。

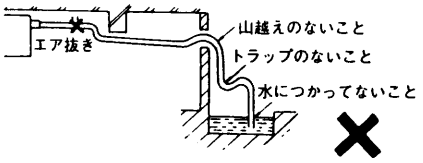
●ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。

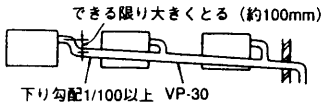
●付属のドレンホース（軟質塩ビ端）をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のクランプで確実に締付けてください。

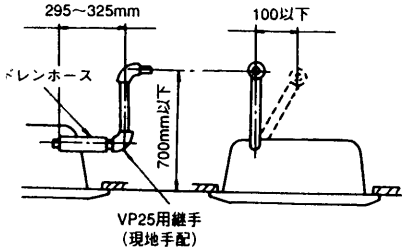
●ドレンホース（硬質塩ビ端）に、VP25用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、VP25（現地手配）を接着・接続してください。

●ドレン配管は下り勾配（1/50～1/100）とし途中山越えやトラップを作らないようにしてください。

●ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行いできる限りユニット近傍で配管を固定してください。







●エア抜きは絶対に設けないでください。

●複数台のドレン配管の場合左図のように、本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP-30以上を使用してください。

●結露が発生し、水漏れをおこす可能性がありますので、下記2箇所は確実に断熱してください。
・ドレンソケット部
排水テストを実施後、パイプカバー（小：付属品）をドレンソケット部に装着したあと、パイプカバー（大：付属品）にてパイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープによりすきまのないように巻いてください。（パイプカバーは形状に合わせて切断してください。）
・室内にある硬質塩ビパイプ

●ドレン配管の出口高さは、天井面より70cmまで高くさせることができますので、天井内に障害物等がある場合にエルボ等を用いて施工してください。この場合、立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなりオーバーフローの恐れがありますので、左図の寸法内で処理願います。

●ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。

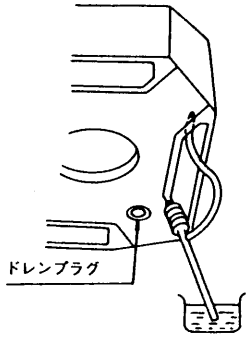
●ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

排水テスト

●試運転時に排水が確実に行われていること、接続部およびユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。

●暖房期の据付の際にも必ず実施してください。

●新築の場合には天井を張る前に実施してください。



1．本体吹出部より給水ポンプなどを使用して本体ドレンパンの中へ約1000c.c.ほど注水してください。

2．ドレン排水しているか排出口部でご確認ください。
※ドレン排水用電動機の回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。

3．ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。
水抜き確認後はドレンプラグを元通りにはめ込んでください。
※ドレンプラグを外す時には、水の飛び出しに注意してください。

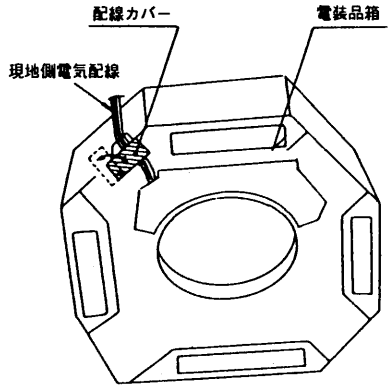
ドレンポンプ強制運転方法

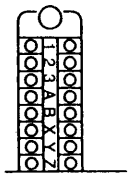
●室内機基板上のディップスイッチSW5-3をONにしてください。ドレンポンプが連続運転します。

●排水テスト後は、必ずディップスイッチをOFFに戻してください。

（電気工事が終了していない場合は排水管つなぎ込み部に凸形継手を接続し注水口を設けて配管系統のもれ及び排水状況の確認をしてください。）

⑥電気配線取出し位置および電気配線接続





端子No.①②③	室内機電源線
端子No.ⒶⒷ	室内・外信号線
端子No.ⓍⓎⓏ	リモコン線

1．配線カバーを点線のように、ねじをゆるめ回転移動させてください。
2．電装品箱の蓋を取り外し、現地側電気配線の接続を行ってください。尚、配線はクランプにて確実に固定してください。
3．配線接続後、配線カバーを元に戻してください。
※電気配線の接続内容の詳細は裏面の「電気配線工事説明書」に記載してあります。

⑦パネル取付

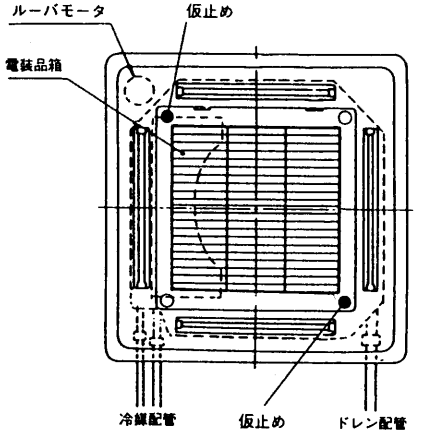
（パネルの取付方法の詳細は、パネル付属の説明書をご覧ください。
パネル取付用ボルトはパネルに付属しています。）

1．本体付属のレベルゲージで本体高さ及び天井開口寸法が正しいことを確認してください。
　1 レベルゲージはパネル取付前に取りはずしてください。
2．パネルに付属のボルト4本のうち、2本を対角に5mm弱ねじ込みます。（●印）
3．2本のボルトにパネルをひっかけ、仮止めをしてください。
4．仮止めしたボルト及び残りのボルト（2本）を締めつけてください。
5．ルーバーモータ用コネクタ（赤）とリミットスイッチ用コネクタ（白）をそれぞれ接続してください。（オートスイングなしは不要）
6．リモコン操作でルーバーモータが動作しない場合は、コネクタ接続を確認後電源を10秒間以上切り、リセットしてください。

パネル目地合わせ

●パネルはコーナー部先端で左右合わせて30mm（約2°）、本体は左右合わせて30mm（約3°）回転できます。

パネル取付制限



●パネルは、左図に示す方向で取付けてください。
●左図以外の方向で取付けると、風漏れの原因となります。
オートスイング用・オートリフト用の配線が接続できません。
●吸込みグリルに取付の制限はありません。

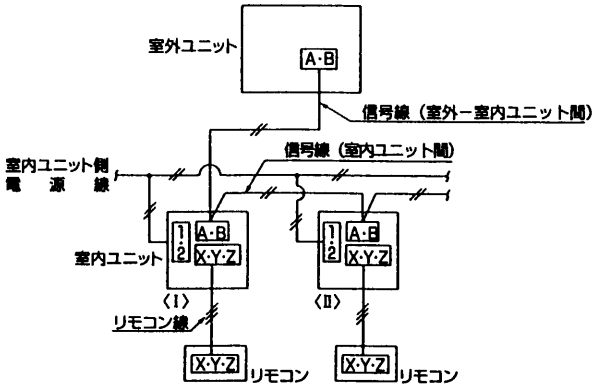
電気配線工事説明書

電気配線工事は電力会社の認定工事店で行ってください。

① 電気配線接続

配線系統図

〔室外・室内ユニット接続要領〕



記事1. 本配線仕様は、
1）電源は、室外ユニット・室内ユニットの夫々別電源
2）電気ヒーター（別売品）含まず
にて記載してあります。
注）別売の電気ヒーターを組込む場合は、電源仕様、配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。

2. 電源仕様

	室内ユニット用		
配線用しゃ断器定格電流（A）	室内ユニット合計電流（A）	10A未満	20
		10A以上15A未満	30
		15A以上22A未満	40
		22A以上27A未満	50
漏電しゃ断器定格電流（A）		10A未満	20,30mA.0.1sec以下
		10A以上15A未満	30,30mA.0.1sec以下
		15A以上22A未満	40,30mA.0.1sec以下
		22A以上27A未満	50,100mA.0.1sec以下

室内ユニット接続線は5.5mm²まで可能です。8mm²以上は専用プルボックスを使用し室内ユニットへ分岐してください。

3. 配線仕様

電源配線		室内ユニット間電源配線	信号線	
室内側		系統間	室外～室内（1）	室内(1)～(2)～
mm²×本数		mm²×本数	mm²×本数	
室内ユニット合計電流（A）	10A未満	2.0×2本（こう長23m）	0.75 / 2.0 ×2本	0.75 / 2.0 ×2本
	10A以上15A未満	3.5×2本（こう長23m）		
	15A以上22A未満	5.0×2本（こう長23m）		
	22A以上27A未満	8.0×2本（こう長23m）		

注）内線規定に従い、配線こう長より配線太さを見直してください。

冷暖フリーマルチ（224H、280H、560H）の場合

分流コントローラの配線

●本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ（別売品）の据付説明書をご覧ください。

② アドレス設定

（1）自動アドレス設定
（2）手動アドレス設定
（3）リモコンアドレス設定
上記3項目については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
なお、（3）リモコンアドレス設定については、設定可能な機種と不可能な機種がありますので、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

③ リモコン取付と配線

リモコン

リモコンは別売です。

リモコンの据付

お願い 次の位置は避けてください。

1）直射日光の当る場所
2）発熱器具の近く
3）湿気の多い所・水の掛る所
4）取付面に凸凹がある所

天井埋込形 1-14/16

リモコンコードを延長する場合の注意 ▶最大総延長600m

コードは必ずシールド線を使用してください。

●全形式：0.3mm²×3心（MVVS）

注（1）延長距離が100mを越える場合は下記のサイズに変更してください。

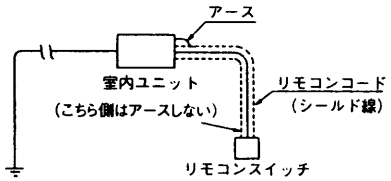
100～200m以内……0.5mm²×3心

300m以内……0.75mm²×3心

400m以内……1.25mm²×3心

600m以内……2.0mm²×3心

●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。

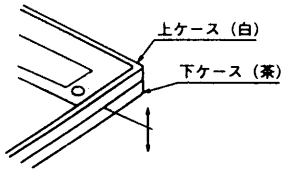


取付要領

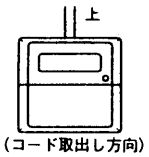
露出取付

①リモコンケースをはずしてください。

●側面上方の上ケース（白）と下ケース（茶）に爪を掛け溝を広げはずします。

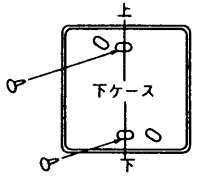


②リモコンコードの取出し方向は、下図のように上方向のみ可能です。



●リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。

③リモコン下ケースを付属の木ネジ2本で壁に取付けます。



④リモコンコードを端子台に接続してください。室内ユニットとリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子台には極性があるので間違えると運転できません。

端子：Ⓧ赤線、Ⓨ白線、Ⓩ黒線

⑤室内機の機種に応じて機能の設定をしてください。

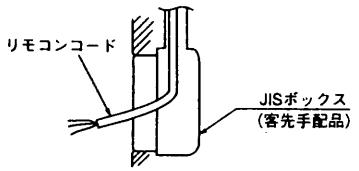
機能の設定の項をご覧ください。

⑥上ケースを元通り、下ケースにはめ込みます。

⑦リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。

埋込取付

①JISボックスとリモコンコード（延長の場合はシールド線を必ず使用）をあらかじめ埋込んでおきます。



〔使用可能JISボックス〕

●JIS C 8336　1個用スイッチボックス（カバーなし）

2個用スイッチボックス（カバーなし）

②リモコンの上ケースを外してください。

③下ケースをM4ねじ2本（頭φ8以下：客先手配品）でJISボックスに取付けてください。

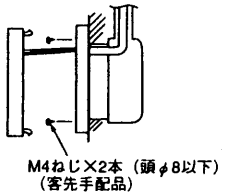
④リモコンコードをリモコンに接続します。

注）露出取付けの項をご覧ください。

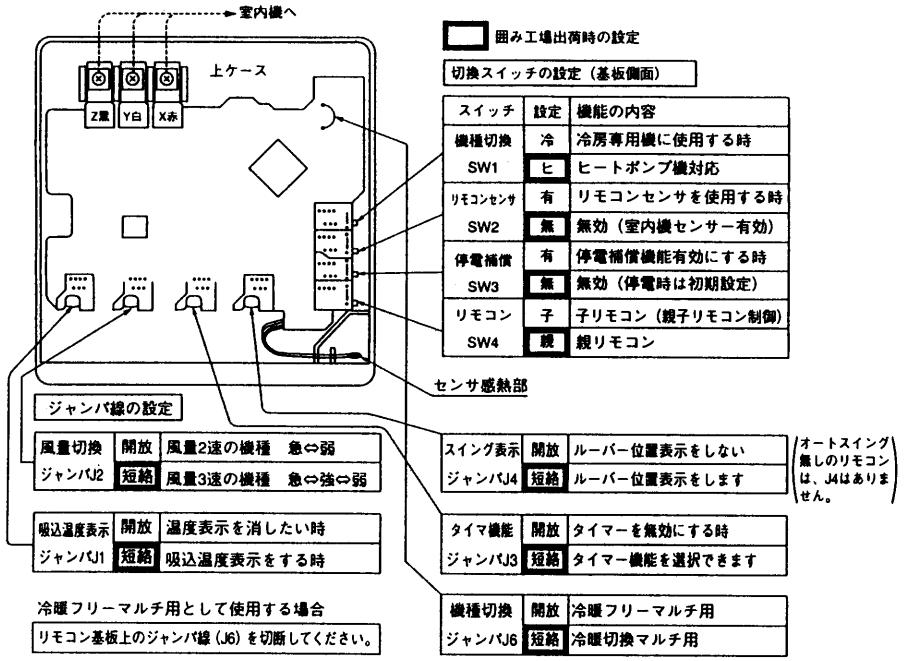
⑤室内機の機種に応じて機能スイッチの設定をしてください。

機能の設定をご覧ください。

⑥上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。



機能の設定



■ 囲み工場出荷時の設定

切換スイッチの設定（基板側面）

スイッチ	設定	機能の内容
機種切換 SW1	冷	冷房専用機に使用する時
	ヒ	ヒートポンプ機対応
リモコンセンサ SW2	有	リモコンセンサを使用する時
	無	無効（室内機センサー有効）
停電補償 SW3	有	停電補償機能有効にする時
	無	無効（停電時は初期設定）
リモコン SW4	子	子リモコン（親子リモコン制御）
	親	親リモコン

ジャンパ線の設定

風量切換 ジャンパJ2	開放	風量2速の機種　急⇔弱
	短絡	風量3速の機種　急⇔強⇔弱
スイング表示 ジャンパJ4	開放	ルーバー位置表示をしない
	短絡	ルーバー位置表示をします
吸込温度表示 ジャンパJ1	開放	温度表示を消したい時
	短絡	吸込温度表示をする時
タイマ機能 ジャンパJ3	開放	タイマーを無効にする時
	短絡	タイマー機能を選択できます
機種切換 ジャンパJ6	開放	冷暖フリーマルチ用
	短絡	冷暖切換マルチ用

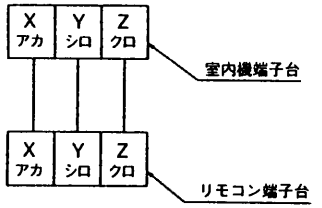
（オートスイング無しのリモコンは、J4はありません。）

冷暖フリーマルチ用として使用する場合

リモコン基板上のジャンパ線（J6）を切断してください。

リモコンと室内の配線

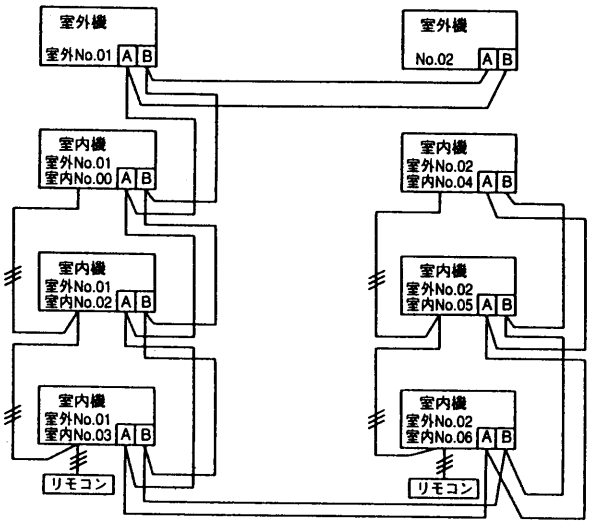
●リモコン配線は極性があります。必ず同一端子台No.同士接続してください。



リモコン複数台制御

配線要領

●グループ制御用に各室内機間に渡り配線をします。(3本)
■室内ユニットリモコン用端子台ＸＹＺに、接続してください。なお極性がありますので、同じ端子No.の所へ接続してください。
■配線は0.5mm²以上を使用してください。(配線の引廻しに耐えるもの)
■渡り線、リモートコントローラ配線の総延長は600m以内としてください。
●室内・室外No.を手動アドレス設定にてセットしてください。
■室外機の室外No.設定も必要です。忘れずに設定してください。
●下図の様に室外機が複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。
●１つのリモートコントローラで複数台のユニット（最大16台）をグループ制御できます。



④ 制御の切換

室内機の制御内容を、下記方法にて切換可能です。

	制御切換方法	制御切換内容
室内機	室内基板［SW-5］のNo.1をON	遠方発停入力（CNT-No.6）切換 出荷時…レベル入力（反転できない） ↓ 切　換…パルス入力（反転）
	室内基板［SW-5］のNo.2をON	暖房時設定温度＋3℃
	室内基板［SW-5］のNo.3をON	ドレンモータ運転
	室内基板［J-2］切断	オートスイング4位置制御ナシ（フリー位置制御）
	室内基板SW-6のNo.1～4のON・OFFを切換える	0はOFF、1はON
	室内基板［J-3］切断	暖房サーモOFF時に室内ファンが停止する。
	室内基板［J-4］切断	フィルタサイン無効（検知しない）
	室内基板［J-5］切断	運転許可禁止制御
	室内基板［J-1］切断	高天井制御（ファン回転数アップ）

機種	22H	28H	36H	45H	56H	71H	80H	90H	112H	140H	160H	224H	280H
1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1
2	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	1
3	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1

⑤ オートリフトパネル降下長さの設定

室内ユニットコントローラ基板のディップスイッチSW9-1、2のセットにより吸込みグリルの降下長さを設定してください。

・オートスイング付パネル：T-PSCL-33Wは、4mにセットしてください。

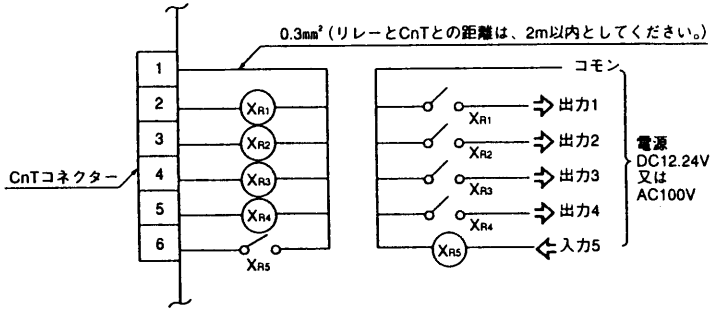
・T-PSL-33W／TN-PSL-33Wの、4mセットはワイヤの絡み付き事故になるため使用禁止です。

室内基板	SW9-1	OFF		ON		出荷時　ON
	SW9-2	OFF	ON	OFF	ON	出荷時　OFF
降下長さ（m）		1.3	1.6	2.0	4.0	
対応パネル		PSL			PSCL	

・オートスイング無しパネル：T-PNL-33Wは4段階設定です。

室内基板	SW9-1	OFF		ON		出荷時　ON
	SW9-2	OFF	ON	OFF	ON	出荷時　OFF
降下長さ(m)	50Hz	1.1	1.3	1.6	2.0	対応パネル PNL
	60Hz	1.3	1.6	2.0	2.4	

⑥ 室内基板CnTコネクタの機能



●$X_{R1\sim4}$はDC12Vリレー（オムロンLY2F相当品）

●X_{R5}は、DC12、24V又はAC100Vリレー（オムロン製MY2F相当品）

●CnTコネクター（現地側）メーカー、形式

コネクター	モレックス	5264-06
端　　子	モレックス	5263T

●機能

出力1	エアコン運転出力（エアコンON時X_{R1}＝ON）	
出力2	暖房出力	
出力3	サーモON出力（サーモON時X_{R3}＝ON）	
出力4	エアコン点検出力（エアコン点検時X_{R4}＝ON）	
入力5	出荷時	X_{R5}　OFF⇒ON　エアコンON
		X_{R5}　ON⇒OFF　エアコンOFF
	現地切換 (SW5のNo.1をON)	X_{R5}　OFF⇒ONのパルス信号によりON／OFF反転

●冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ（別売品）の据付説明書をご覧ください。

●遠方発停・監視キットを別売品で準備しておりますのでご利用ください。

⑦ 試　運　転

試運転については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑧ 故障診断方法

故障診断方法については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑨ 工事完了後のチェック項目

□電源電圧は本体表示と同じですか。

□室外機側でアース工事はされていますか。

□電源線の太さは指定の配線と同じですか。

□電源線、信号線、リモコン線の接続位置は正しいですか。